

令和 7 年度

福島県 大学生の力を活用した集落復興支援事業
鮫川村真坂集落業務実施報告書

東京農業大学 SATOYAMACreators

指導教員 東京農業大学地域創成科学科地域デザイン研究室 入江彰昭

目次

第1章 団体概要	3
第2章 対象地域概要	
2-1 真坂集落について	
2-1-1 真坂集落の現状	4
2-1-2 真坂集落の年間スケジュール	5
2-2 真坂農村公園について	
2-2-1 誕生の経緯	6
2-2-2 かつての利用	7
2-2-3 現在の利用	7
第3章 活動報告	
3-1 活動スケジュール	8
3-2 各活動内容の詳細	
3-2-1 第1回の活動について	8
3-2-2 第2回の活動について	9
3-2-3 第3回の活動について	10
3-2-4 第4回の活動について	11
第4章 集落の課題	12
第5章 次年度の活動計画 サポート事業に向けて	13
第6章 まとめ	13

謝辞

第1章 団体概要

東京農業大学 SATOYAMA Creators は、「文化が景観をつくり、教育で文化をつなぐ」を活動理念とし、大学生と地域住民、役場が交流、連携しながら里山資源を活かした地域づくり及び地域活性化を図ることを目的として設立した。指導教員1名と学生6名（令和7年度時点の人数）からなる。里山全体をフィールドとし、地域住民との交流を通じて、地域の文化を学び、地域景観を保全し、教育を通じて文化を継承する活動を行っている。

本事業での対象地である福島県東白川郡鮫川村の真坂集落は、当団体が設立する前から地域住民の方々と交流を重ねており、人口減少や高齢化等の集落の課題を目の当たりにしていた。そこで学生が集落に入り、交流することで、学生が持つアイデアと集落の方々の希望を融合させ、鮫川村の優れた里山資源を活かした地域活性化を行うことを目指している。



第2章 対象地域概要

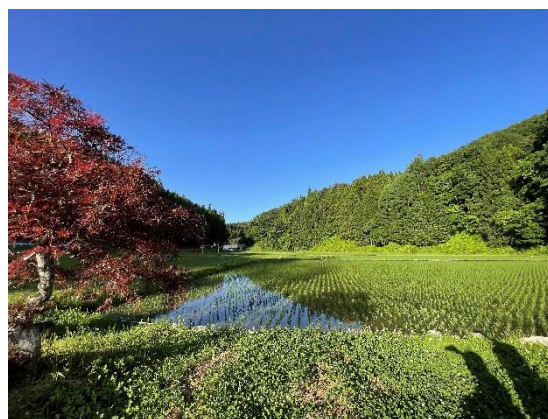
2-1 真坂集落

2-1-1 真坂集落の現状

阿武隈高原の中山間地域に位置する鮫川村には、田んぼと山林に囲まれた美しい里山景観が数多く見られる。真坂集落は村内で比較的中心地に近い、真坂農村公園を中心とした一集落である。かつては水稻や養蚕、畜産業など農業が盛んで集落が一丸となり助け合って生活してきた。地域内のつながりは今も強く、春・秋の祭礼や芋煮会、イルミネーションの飾り付け、小正月の酉小屋（どんと焼き）など多くの行事で結束力を見せている。

鮫川村全体の高齢化率が40%を超えているように、真坂集落の高齢化も例外ではない。地域の担い手が減少していくなかで、真坂農村公園の美しい景観や地域の取り組みを次の世代にどのように残していくかが、大きな課題となっている。特に景観の維持管理に関しては、夏場の草刈りや農地・公園の管理など、体力を使う外仕事が多いため、現在活動の中心となっている70代が引退すれば一層難しくなると考えられる。

そんな真坂集落に学生が入り、学生が持つアイデアと集落の方々の希望を融合し、真坂集落の中心である真坂農村公園をより集落の方々が愛着を持てる場所にすることができればと思い本事業に応募し、活動を行ってきている。



鮫川村の風景

2-1-2 真坂集落の年間スケジュール

真坂集落の行事等の年間スケジュールは下記の表-1 のとおりである。なお、日時については多少の前後があるため、月単位での記載を基本としている。

表-1 真坂集落の行事等の年間スケジュール

日時	内容
5月3日	総会（年間スケジュール決め）
5月	さなぼり ¹⁾
7月 土用の丑の日	大掃除、草刈り、メンテナンス
9月	旗あげ（お祭） ²⁾
10月	中野地区の体育祭（現在は行っていない）
11月	芋煮会、イルミネーション設置
1月 小正月	西小屋（どんど焼き）

注釈

- 1) さなぼりとは、田植え後に田の神様を送るための祭事である。
- 2) 旗あげとは、竹に大きな旗をつけて真坂集落公民館の前に立てるといふもの。



草刈り（上段）と西小屋（下段）の様子

2-2 真坂農村公園

2-2-1 誕生の経緯

今から 30 年ほど前に田んぼの区画整備として作られた公園であり、整備には地元のゆき建設さんが関わった。公園内には、とりあげ石といわれる大きな石があり、その石を中心として公園が作られた。この石は別の場所に作られる予定であった城の石垣に使われる予定で、運ばれてきた。運ぶ途中で現在の場所に仮置されたが、いつの間にか動かせなくなってしまった。このとりあげ石には、石にお参りをすると子供を授かるといういわれがある。



真坂農村公園ととりあげ石（右下）

2-2-2 かつての利用

かつて真坂農村公園では、相撲大会や飲み会等が開催され、50～100 人ほどの人が集まることもあったが、現在では集まる機会はなくなっている。

公園内には川が流れており、その川から水を引き込み池も作られていた。川では夏に水浴びをしたり、池では鯉に餌をあげたり、冬場には凍らせてスケートをしたりしていた。このようにかつての公園は集落の方々に日常的に利用され、人が集まる場所であった。池については、上流からの土砂等によって現在は埋もれてなくなっている。

2-2-3 現在の利用

鮫川村から依頼されるかたちで、公園の管理を集落の皆さんで行っている。集落で連絡を流し草刈り等を行っている。草刈りは年に 4～5 回、23 世帯ほどの人達が集まって 1 時間半かけて行っている。23 世帯ほどとは、真坂集落の中で 4 つにグループ分けがされており、分かれたグループごとに草刈りを順番に行っている。

毎年、冬にイルミネーションを設置している。11 月下旬に設置し、1 月中旬の酉小屋行事までの期間で行っていて、集落の方々が協力して行っている。このイルミネーションは中山間地域に向けた補助金を受けたため、15 年ほど前から始めたものである。年数を重ねるごとに規模が大きくなっていき、竹で型を作ってキャラクターを作ったりもしている。

現在でも集落の方々によって管理作業が続けられているが、かつてのような日常的に利用されることがなくなってしまう。



イルミネーションの様子

第3章 活動内容

3-1 年間スケジュール

令和7年度の本事業における活動日時と内容は下記の表-2のとおりである。

表-2 活動スケジュールと活動内容

活動日時	伴奏支援内容
第1回 2025年5月25日	石段や剪定等の真坂農村公園整備
第2回 2025年7月27日	草刈りや剪定等の真坂農村公園整備
第3回 2025年11月30日	真坂農村公園でのイルミネーション設置 芋煮会への参加 真坂農村公園について集落の方への聞き取り調査
第4回 2025年1月18日	真坂農村公園でのイルミネーション撤去 西小屋への参加

3-2 各伴奏支援の詳細

3-2-1 第1回の活動について

1回目の活動は、2025年5月25日に真坂農村公園の整備を行った。参加者は本団体員3名、学部生10名、教員1名、鯉川村役場職員2名の計16名である。

真坂農村公園の整備は、土砂崩れによって登れなくなってしまった石段の整備を行った。集落の方々が高齢化のため、できない力仕事を代わりに大学生が行うといった形での支援となった。

低木の剪定も行い、真坂農村公園の草取り以外の整備を進めることができた。集落の方がなかなか手を出せなかった作業に取り組んだ。



公園整備作業の様子

3-2-2 第2回の活動について

2回目の活動は、2025年7月27日に真坂農村公園の整備を行った。参加者は本団体員4名、学部生10名、教員1名、鮫川村役場職員2名の計17名である。

真坂農村公園を集落の方とともに斜面の整備を行った。前回整備した石段付近の斜面が高木、低木が生い茂り、荒れている状態であった。この斜面の整備を行った。

枝葉が多く繁茂しており作業量も多く、斜面であり足場が悪い中、安全に協力しながら作業を進めることができた。



公園整備作業の様子

3-2-3 3回目の活動は、2025年11月30日に真坂農村公園にてイルミネーションの設置とその後の芋煮会へ参加した。参加者は、本団体の員1名、学部生5名、教員1名、鮫川村役場職員2名の計9名である。

1年目、2年目と同様に今年度もイルミネーション設置と芋煮会へ参加した集落の方々と公園内の樹木や植え込み、とりあげ石等に設置した。集落の方々とお話をしながら作業を行った。男子学生はイルミネーション設置、女子学生は芋煮会の準備とそれぞれ分かれて作業を行った。その後の芋煮会では、集落の方々のお話を聞くことができた。



イルミネーション設営の様子



芋煮会の準備の様子



芋煮会の様子

3-2-4 第4回の活動について

4回目の活動は、2026年1月18日に酉小屋へ参加した。参加者は、本団体員2名、学部生9名、教員1名、鮫川村役場職員2名の計14名である。

集落行事の酉小屋は、竹で組んだ小屋の中にお供え物を入れて燃やすというもので、伝統的な行事となっている。竹林から切り出した竹を切り、小屋を建てる段階からお手伝いさせていただいた。一般的にはどんと焼きやお焚き上げと呼ばれる行事であるが、真坂集落では酉小屋と呼ばれ、竹で小屋を組み、その小屋ごと燃やすという独特な行事である。こうした伝統行事の存続に協力することができた。



イルミネーション片付け



酉小屋準備作業の様子



酉小屋の様子



懇親会の様子

第4章 集落の課題

集落の課題としては、高齢化があげられる。現在の集落行事や公園整備の中心となっているのが60～70代の方々であり、今後の集落活動の維持が課題となっていくと考えられる。

例年通りの活動を行ってきたが、集落の方々は公園について現状の管理作業とイルミネーション、集落行事を継続していきたいということが分かった。また、公園にあるとりあげ石について、お賽銭やお酒をかけると子供が授かるという言い伝えをアピールしたいということも分かった。真坂農村公園においても今後の管理等が課題となっていく中で、集落の方からも上がっているイルミネーションやとりあげ石のアピール等、集落外に向けた発信が必要であると考えられる。加えて、公園が集落の方々によって日常的に利用されるような場所となることも課題の1つであると考えられる。

第5章 次年度の活動計画サポート事業に向けて

鮫川村真坂集落で福島県大学生の力を活用した集落復興支援事業を取り組み始めてから3年目の活動になった。来年度から集落主導のサポート事業へとなるが、例年取り組んできた行事の参加、真坂農村公園の整備については、行っていきたい。

サポート事業は集落の方の事務作業が必要になってしまうため、来年度もこの大学生事業を行っていくのかは、高齢化が進む集落の中での事務負担などを鑑みて慎重に検討していきたいと考えている。

これまで行ってきた活動は集落活動の維持に必要なことであり、集落の方々が時間と労力をかけて守ってきた大事な暮らしである。そこに大学生が加わり、暮らしの維持に貢献できていたらこの活動の意義があったといえる。

第6章 まとめ

本事業を通して、真坂農村公園を中心とした真坂集落のことを深く知ることができた。活動においては、集落の方々と作業を一緒に行うことや芋煮会や懇親会等の交流の場で集落の方々から直接お話を伺う機会も多かった。その中で、集落の方の日々の暮らしから集落の方々の思いを知り、そこから集落の活かせる地域資源を見つけることができたと同時に課題も見つかった。これまで活動してきた経験や知見から得た地域資源と課題をもとに今後は、集落の方主導の活動に学生が力添えし、課題を解決するだけでなく、地域資源を活かせるような環境を共に作っていかれたらと考える。

また、活動を通して集落の方々との交流の大切さを強く感じた。自分達で調べて知ったこと、見たことの情報では分からないこと、気づかないことが多くあることを目の当たりにした。今後も活動が続けていく中では、本団体が大切にしている「交流」をしっかりと行い、「交流」から多くのことを発見していけるようにしたと考えている。



謝辞

本事業を行うにあたり、福島県東白川郡鮫川村役場、鮫川村真坂集落の方々にはお忙しい中でも、いつも温かく学生を迎え入れていただき、活動にご協力いただき、誠にありがとうございます。この場をお借りして御礼申し上げます。また、本事業において事業を支えていただいた福島県地域振興課の皆様、社会システム株式会社の皆様には大変お世話になりました。御礼申し上げます。